２０１７年春の大セミナー５th C+ １８番テーブル総評

文責：三浦（立教４）

１．　テーブルメンバーと順位

１位　小北（法市２）
２位　道方（青学３）
３位　萩原（フェリス２）
４位　岩井（慶應２）
５位　増田（成蹊２）
６位　杉田（フェリス３）
７位　佐渡（フェリス３）

２．　議論の流れと総評

Narrowing はそつなくこなし、OP には杉田と小北が立候補した。どちらも O/T の usual オピシであったが、それぞれのコンパリアイディアに対し多くの質問が飛び交った。そして、30 分時間を要し、小北が OP に選ばれた。ASQ においてもテーブルメンバーほぼ全員が質問をしていく展開となったが、一番の山場は SOH であった。増田が SOH に「TG は臓器移植以外にも助かる方法があり、別の方法を用いることができる」という obj をした。このアーギュに対しまずは道方がカンファメによってストリームを明らかにした後、TG の s/m は serious であるという反論に繋げようという動きが見られたが、うまくいかなかった。次に小北がそもそもこのアーギュのゴールが Narrow TG であることを引き出し、contents を確認後 narrow TG するかしないかを決めるプロシをひいた。その後岩井が「別の方法」を挙げたらきりがないことを指摘し、小北が岩井のアイディアを用いながら Narrow TG できないことをロジックを使って説明し増田のアーギュが収束した。

残りの ASQ ではドナーが脳死に至ってから臓器を提供するまでにどのようなステップがあるか、誰の同意が必要なのかについての情報が少なく多少のダウトが生まれたが、岩井の情報提供などによって収束する。

NFC では岩井が S.Q でも臓器移植の件数は上がるので現状を変える必要はないという obj をした。小北がこれに対し将来的には件数が上がり患者が助かるかもしれないが、今現在から将来までの間に今回の政策によって TG を救う余地があることを確認しこれに岩井が承諾し収束した。

Praca では佐渡が妥当な理由がない限り日本政府は脳死者に”forcement”をすることはできないというアーギュをした。佐渡的には”obligation”は納税の義務や労働の義務、義務教育を意味し逃れようとすれば逃れられるもの。対して”forcement”は逃れられない義務という違いがあった。ゴールは change mandate で forcement から obligation へと変えるという内容であった。小北がデータの真偽を検証した後 change mandate するか否かを決めるというプロシをひいた。その後 forcement の定義を聞き出し、道方が mandate にはたとえ脳死者が臓器提供しなくとも罰則は設けられてないので逃れられるという反論をする。この反論と佐渡のアイディアを萩原がカンファメしたところで３時間が経ち、議論が終了した。

テーブル全体を振り返って言いたいことは、もう少しタイマネ意識を持っていればより内容の濃い議論ができたということです。このテーブルではオピメ決めや ASQ において、コンパリで必要になる定義を確認しておこうというコンパリを見据えた介入が多く見られた点が良かったことです。しかし、コンパリのことを聞きすぎて結局オピメ決めに 30 分を要してしまったり、ASQ でも時間を使ってしまい最終的にプラカで３時間が終了してしまいコンパリができないという本末転倒な結果となってしまいました。オピメ決めの際にはコンパリアイディアのイメージをつかめればよいし、ASQ でも TG の状況を最低限オピメから引き出せればよいのです。だから、オピメ決めの時にはタイムリミットを設定し、これ以上の質問はオピメ決定後にするように促したり、ASQ においても今確認しなきゃいけないことと、コンパリで確認すればいいことの取捨選択をしていけるともっと前半の時間を短縮してその分後半のアーギュ検証やコンパリに時間を使うことができたかなと思いました。

３．　順位と選定理由

１位　小北（法市２）

積極的にＱをしたり、相手のアーギュに Suggestion,comfirmation などでアプローチするなど、マルチに活躍していたため１位としました。PDD 界における事実上のルールであるセオリーの理解を充分にできていたことでオピメとして実力を発揮していました。今後はセオリーを示すだけでなく、相手の意見に寄り添った上で柔軟に介入の仕方を変えられるようになるとさらに良い結果がついてくると思います。

２位　道方（青学３）

アーギュメントの話の取捨選択をテーブルメンバーで唯一理解しテーブルを進めようと努めていました。質の高いとても良いアプローチをしていましたが、話を収束しきれなかったことと介入量が少なめだったのが惜しいところです。考えていることは正しいので、このままプレパを重ねればきっと努力が実を結ぶと思います。頑張ってください。

３位　萩原（フェリス２）

随所で有効なカンファメを行ったり、他の人のＱに choice を追加し答える人の意見の理解に貢献していました。最後のカンファメはとても良かったです。第三者介入をする姿勢はできているので、アーギュなどで自分の意見を話す時間も設ければさらにテーブルで活躍できると思います。

４位　岩井（慶應２）

アーギュにダウトをしたり、皆が evi がなくて困っているときに情報を提供するなどして議論の進行に貢献していました。とても良いことを言っていましたが、他の人にカンファメをされる場面が多かったので、カンファメされないように自分でプレゼンを終わらせることができればもっと活躍できると思います。

５位　増田（成蹊２）

SOH へのアーギュや Cause でのダウトで積極的に発言していました。自分のアーギュに対する他の人のアプローチがどこまであってて何が違うのかなどを説明できるようになれば、他の人と話を噛み合わせることができてより円滑にアーギュすることができると思います。

６位　杉田（フェリス３）

カンファメや相手の意見へのＱなどに努めていました。第三者介入を頑張っていましたが介入量が少なめだったのが惜しいです。また、オピメに ordinalＱではない質問をして×consider にされてしまう場面があったので、なぜその質問をするのか理由、intention を明確にするともっと良くなると思います。

７位　佐渡（フェリス３）

最後にプラカアーギュで forcement の是非を問いかけていました。このアーギュ

は良いアーギュでした。それゆえ、前半で介入がほとんど見られなかったことが惜しいです。アイディア力が高いのでその長所を活かして、今後色んなアーギュ、ダウトなどをテーブルに示して発言回数を増やしていければよいと思います。

４．　最後に

　このテーブルではみんな積極的に介入し、議論を盛り上げようとする姿勢が見れてよかったです。大学生の春休みでこんなに真剣にディスカッションをできるということは本当に貴重な経験だと思います。まだまだみんな伸びしろがあると感じたので春セミに終わらずアッセンまでプレパして活躍できるように頑張ってください！　応援してます！！